

開成校新聞

発行 開成中等新聞局
発行責任者 山田 * * *
東区北22条東21丁目
TEL 788-6987

屋久杉・種子島宇宙センターを見学

屋久島プロジェクトを実施

2022年12月1日から4日にかけて、屋久島プロジェクトが行われた。これは開成の代表的なSSHプロジェクトの一つであり、開成高校時代から行われている。今年は募集がかけられた5年生から、定員を超える応募があったため、レポートによって10名が選ばれた。



研修場所は、1日目「水俣病情報センター」2日目「種子島宇宙センター」3日目「屋久島(トレッキング)」4日目「屋久杉自然館」である。水俣研修では、水俣病が発生した原因を企業・住民・被害者の視点から複合的に考えて学び、種子島研修では、ロケットの開発や人工衛星の展示、発射場の見学をするなど、屋久島のみならず様々な面からサイエンスを学ぶ機会となった。

参加者に聞いてみた

新聞局は、参加者の一人の山本響輝さんに、屋久島プロジェクトの興味深かった点などについて話を聞いた。
Q・プロジェクトで最も面白かった研修場所はどこですか?
A・屋久島です。ト
新聞局は、参加者レッキングは往復12時間も歩いたため、非常に疲れましたが、トレッキング中や昼食時にはガイドさんから屋久島の植生や動物などについて説明して貰えて、多くの興味深く、勉強になる話を聞くことができたからです。
Q・何が最も楽しかったのですか?
A・屋久島は標高差が激しく、植生が垂直分布となっていて、そのため、バイオームなどの地理や生物で学んだ知識の裏付けが出来て、研究欲を満たせた喜びが感じられました。

先生紹介

今回は昨年4月から育休をとられていた保健体育科のN先生にお話を伺った。
育休の取得時は長男はまだ一歳で手がかり、次男は出生後、手術が必要だったこともあり、今回の取得に踏み切ったようだ。育休を通して、育

休をとられていた保健体育科のN先生にお話を伺った。
育休の取得時は長男はまだ一歳で手がかり、次男は出生後、手術が必要だったこともあり、今回の取得に踏み切ったようだ。育休を通して、育

開成豆知識 | 入試編 |



N先生

1月27日、開成に合格した受験生が発表された。合格者の男女比は、均等ではない。これは、2年前の募集人員の制度変更によるものである。
開成中等の開校当初、入学者の募集人員は男女80名ずつと区別されていた。しかし2年前、男女関係なく、160名の生徒が入学する制度へと変更された。この変更の意図について、副校長のG先生に聞くと、「生徒の募集は札幌市教育委員会が定める要綱に則ってお

1/365コマ



卒業式の翌日、6年生の教室前にジョジョ立ちの5年生が出没した。彼らは今後開成を引っ張ってゆく存在となる。
To Be Continued

局員開成再受験

我々新聞局は、今年度の開成入試問題の一般公開を受け、開成の入試問題の問題形式や全体での難易度の調査を行った。このコーナーでは、今年度の問題に対する見解を述べていく。新聞局員で今年度の入試問題を解いてみたところ、やはり開成生として何年か学んできたこともあり、局員Jが一問落としてしまったものの概ね正解だった。そして局員からは、適性検査Iよりも適性検査IIの方が難しいという声が多かった。その理由として、適性検査IIの問題形式の変化が挙げられる。適性検査IIの問題形式は記述量が以前より大きく増えており、局員の開成受験時と比べてより文章力が問われる問題となっていた。

特に、適性検査IIの大問二は新聞記事を書く問題であり、入試問題の中でも難易度が高かった。加えて、この問題では文字数制限や使用する語句の指定もあった。共通テストでの記述式問題の導入は見送られたが、昨今は思考力・問題解決力が求められる場面が増えている。その変化が開成の問題傾向にも表れているのかもしれない。



▲適性検査II 大問2

興味のある人はQRコードを読み取って問題に挑戦しよう!